



バイナル+ネオン+オーディオ=スポコン屋!!

オーナー自身がデザインした「バイナルグラフィック」をベースに、「4スピーカーシステム」を搭載した「リアル・スポコン」の登場です! クルマでいうスポコンにおいてバイナルは必須カスタム、そしてオーディオも魅せるインストルが基本。ビッグスクーターにおけるスポコンは、間違いないくまのマジェなです。そして「HOT WIRED」で製作されたオーディオシステムは、ウーハーやパワーアンプなどは設置していないながらも、全体のバランスを崩さずことなく「スポコン」をアピールしています!!

グラフィックやスピーカーボックスのデザインなど、己のこだわりを制作させたオーナーの「C-mu」は、ココまで変貌を undergone マジェが、実は乗り出して1年経っていないというから驚きです。新号で登場したASA-yanと一緒に「StreetDistance」というチームを立ち上げたそうなので、興味のある方は <http://www.md.cw.ne.jp/streetdistance/> を覗いてみて下さい。



「ROCKFORD FOSGATE」のスピーカーは、曲調を流したデザインがオシャレを感じてます。上のスピーカーは10インチ、下のスピーカーには4X6センチの高性能スピーカーをチョイス。4スピーカーシステムで立体的なサウンドが実現されました。

1:ユニット位置決め

グローブボックスの外縁をエアカン(強力なドライバーみたいなもの)で、揺めます。そうなるとユニットを押し込んでおくことで、座席をユニットに合わせて形状変更することができ、平気でスライダーの端まで固定が可能になります。向山は座席をスライダーに固定するのではなく、ユニットの操作面と合わせるという方法で、そして実用性のスライダーでも、がんばれば出来ないこともないです。(ただし、オーバーヒートの可能性あり)

2:電源をとる

オーディオ機器の電源をとるには、基本的にはどこでも取れるのですが、イグニッション回くがー番! というのも、この付近で電圧が高いので常に安定した電圧を供給してくれるからです。

3:アーシングをする

アーシングはボディのメインフレーム(太いパイプ)に確実にするがマスト! です。しかも金属を削り出してシリンダーまでコーティングを施すのがポイント、そうすることで、オーディオシステム全体の電気抵抗が大幅に向上するのです。

4:配線処理

ユニット、電源などと繋ぐ配線にもプロの技が光ります。ボディフレームなどに覆われて邪魔するのを防ぐために、チューブやテープと呼ばれるゴムの筒のようなもので保護するのです。あと、配線は下から上に取り回します。これは、濡れたときに配線を保って水が内部に侵入するのを防ぐためです。

5:ユニット固定

あとは、グローブボックスから出した配線とユニットのコンタクトを繋げれば完成なのですが、今後のオーディオ拡張性などを考えてユニット側の形状を変えています。しかも、金属の板を貼ることで、配線はしっかりと保護、シート作業でケーブルの断線に気をつけているようにしたので、前方のスターで固定すればOKです。

HOT WIRED オーディオ製作の奥義を伝授します!! (第1回)

オーディオ・カスタムも一筋の縄になる昨今ですが、自作したものの何とトラブルがーなんてヒトいませんか? そんなアナタのために極秘に? プロシヨンの技をお見せしましょう。ならではの感かなテクニックとノウハウに、へーと感かくなること間違いなし! というわけで、今回は「ユニット取り付け」に関するプロの技です。

1:ユニット位置決め



2:電源をとる



3:アーシングをする



4:配線処理



5:ユニット固定